

# 中学校国語科教育 実技・理論 研修会 終了報告

テーマ	「授業づくりの力を高めるための理論と実技～言語活動の充実を目指して～」
日時	令和7年 11月 18日(火)
会場	当別町立とうべつ学園
講師	桂川 淳 氏 (とうべつ学園校長)
参加者	16名
研修会 の 様子	<p><b>「児童生徒の日本語は、国語教師が意図をもって育てる」</b></p> <p>「児童生徒の日本語は、国語教師が意図をもって育てる」「すべての教科の根幹を支えているのは、国語教師であるという自覚をもつ」「楽しくなければ、国語じゃない」…理論のお話が、ほぼすべて名言で構成される実技理論研のスタート。参加した先生方も、導入から引き込まれます。</p>
	<p><b>『「書く力」を伸ばすために』は、「日本語の体幹を鍛えること」</b></p> <p>『「書く力」を伸ばすために』は、「日本語の体幹を鍛えること」…つまるところは漢字から、言葉から、語彙から。小学校の既習漢字を、中学校でも不断に復習する機会を設定する必要性。その評価の実際について。次々に飛び出す授業のエッセンス。</p>
	<p><b>「200文字作文」</b></p> <p>待ちに待った「200文字作文」のワークショップ。国語の先生達が、六つの条件(字数や構成)に従って作文を書きます。書いた作文は御大自ら添削してくれるそう。生徒のように我先にと作文に取り組む先生方。講師の目が悪戯っぽく細められます。</p>
	<p><b>定期テストと日常の授業をリンクさせること</b></p> <p>定期テストと日常の授業をリンクさせること。 何を学ぶのか、明確に「単元をデザインすること」。 単元デザインの提案における中2「走れメロス」の「真の勇者は誰だ」(R7.11 とうべつ学園授業より)の内容について…など、枚挙に暇のない、授業づくりのエッセンスがお話の端々にちりばめられていました。</p>
	<p><b>「ごんぎつね」を中1で</b></p> <p>小学校4年生の「ごんぎつね」を中1で行う時、「理解や感想をもつ」から「作品の解釈」へ…と学年に応じて題材のもつ魅力をどういかすか、の授業づくりを参加者がグループで考え、発表しました。あっという間の1時間半、先生方は明日以降の授業へのモチベーションをおおいに上げ、桂川先生に大きな拍手を贈り、帰途に就いたのでした。(開催当日の江別-当別は大荒れの天候…参加の皆様、ありがとうございました。)</p>